

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月8日実施)	成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎基本を踏まえて発展的に学ぶことができる教科指導を充実させ、「学び直しとしての学力」「上級学校において役立つ学力」「社会の中で自ら生きていくために必要な学力」を定着させる。</p> <p>②「学びの場」としての定時制総合学科の意義を自覚させ、一人ひとりの生徒が主体的に参加する授業を展開する。</p>	<p>①単位制総合学科のシステムを活かし、多様な生徒のニーズに対応できるよう、教育課程を実施していく。</p> <p>②学習習慣を定着させ、生徒一人ひとりが主体的に授業に参加する授業づくりを推進するため、組織的な授業改善の取り組みを行っていく。</p>	<p>①多様な生徒のニーズに応じた、きめ細かい学習指導を行うために、他のグループやプロジェクトチームと連携しながら、生徒の学習環境の整備に取り組む。</p> <p>②校内でテーマを決め、授業改善週間を設けて取り組む。あわせて、研究授業を行う。また、1年次の学びなおしの授業(プログレス科目)を生徒に周知し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>①他のグループやプロジェクトチームと連携することで、生徒の学習環境を向上させることができたか。</p> <p>②組織的な授業改善の取り組みを深め、学校の全体でその成果を共有することができたか。また、1年次のプログレス科目の履修者に対して、単位修得者が80%以上になったか。</p>	<p>①他のグループやプロジェクトチームと連携し、Googleアカウントの作成や生徒の履修希望の調整などについて実施し、生徒の学習環境の基礎となる部分について適切に整備することができた。</p> <p>②学ぶことに興味・関心を持ち、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせた『深い学び』の実現をテーマに設定し、授業改善週間を設け、組織的な授業改善の取組を実施した。あわせて、研究授業を実施し、全教員でその成果を共有した。また、1年次のプログレス科目については、成績の確定している前期時点で、履修者(退学者等は除く)に対する単位修得者の割合は80%であった。</p>	<p>①令和8年度からの、総合学科から普通科への学科改編に向けて、他のグループやプロジェクトチームと連携し、生徒の学習環境を保ちながら、整備を進めていく必要がある。</p> <p>②組織的な授業改善の取組を深めるため、校内での研修会などを実施し、共通理解を深めていく必要がある。また、1年次のプログレス科目の生徒への周知方法は、引き続き検討していく必要がある。</p>	<p>○普通科への学科改編をチャンスととらえ教育活動を充実させてほしい。</p> <p>○総合学科のよいところを残してほしい。</p> <p>○探究的な学習活動が大切である。深い学びは、生徒が主体的に学習活動に取り組み、得られた知識・技能をまとめ理解し、発信することであると思う。生徒の学習活動の教職員の適切なサポートをお願いする。</p> <p>○本校の教育活動は、探究的な学習に適していると思う。中学生・保護者へさらにPRしてほしい。</p>	<p>①生徒の多様なニーズに応じた学習指導を行うことができた。ICTを活用した教材配付等、学習環境を整備できた。</p> <p>①令和8年度からの学科改編に向け、県教委と連携し着実に進めることができた。細部については県教委と連携し適切に対応する。</p> <p>②授業改善の取組は研修等の機会に教員間で情報共有することにより成果がでている。プログレス科目の履修について、生徒に必要な十分な説明を行い80%の生徒の履修が成立した。</p>	<p>①引き続きICTの活用を充実させ、学習環境の整備に努める。</p> <p>①総合学科で蓄積した教育活動のノウハウを、普通科にどのように継承することができるか研究を進める。</p> <p>②プログレス科目の履修について、引き続き指導し、履修放棄者を減少させる。あわせて、探究的な学習の充実に努める。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①一人ひとりの生徒理解を基本とし、生徒指導や教育相談体制を充実させ、より安心して学べる場となる学校をつくる。</p> <p>②教育活動全般に道徳教育を推進し、道徳的心情と道徳的判断力を育む。</p>	<p>①日常の観察や声かけを通して、生徒が安心して活動できる環境を整える。生徒の健康観察を行い、感染症予防対策を継続する。</p> <p>②生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成に努める。交通安全教育等を推進し、命の大切さを自覚させる。教育相談体制を</p>	<p>①校内巡回や年次間からの情報を共有し、生徒一人ひとりへの指導・支援に活用する。健康チェックシートの活用と毎日登校時の検温を行う。</p> <p>②生徒心得の周知と巡回指導や授業時間の遵守等において規範意識を醸成する。交通事故ゼロ運動や交通安全教室の実施により交通安全教育を推進する。毎月の年次会とケース会議から教育相談コーディネーター(教育相</p>	<p>①校内巡回等のデータ、健康チェックや保健室利用のデータ分析を行い、生徒一人ひとりへの指導・支援に活用できたか。健康チェックを継続し生徒の健康増進に関する意識を高めることができたか。</p> <p>②校内巡回や指導等により生徒の規範意識を醸成できたか。交通事故ゼロ運動や交通安全教室の実施により交通安全教育を推進することができたか。年次会とケース会議の開催状況や外部機関との連携状況は良好であ</p>	<p>①巡回等で得られた情報を定期的に教員間で共有し、生徒とのコミュニケーションを図ることで特別指導件数を減少させることができた。健康チェックの入力は減少したが、年次防止や健康管理の意識を高めることができた。</p> <p>②月例で年次会を実施して支援を要する生徒の情報を教育相談Co(ケース会)に集約、必要に応じてSC・SSWと連携しながら外部機関につなげることがで</p>	<p>①今後も生徒の安心・安全な学習環境の維持を目指して、データ活用をしながら取り組む。教育相談での案件に対する教員間の考え方の相違が課題であるが、情報共有を密にすることで共通の認識で支援できる体制構築を目指す。</p> <p>②年次会とケース会との間での情報共有をさらに密にする必要がある。支援を要する生徒との関わりにおいて、個人ではなく組織として取り</p>	<p>①日ごろの指導に敬意を表します。特別指導案件が1件であったということだが、特別指導は生徒との距離を縮めるチャンスととらえ支援の手を差し伸べてほしい。</p> <p>②教育相談体制を整備いただき感謝する。SCやSSWとの連携強化については、県の施策もあり、すぐに勤務日の増加という見通しは立てられないと思うが、学校内で調整し効率よく活用してほしい。</p>	<p>①引き続き校内巡回を徹底し、落ち着いた学習環境を提供する。また、日々の声掛けで生徒とのコミュニケーションを図り指導を受け入れやすい環境を構築する。</p> <p>②ケース会の定期的な開催により、情報共有が緻密に行え、外部機関と連携を図り、生徒支援につなげることができた。引き続き、個々のケースに迅速で適切な支援を行えるように取り組む。</p>	<p>①校内巡回を今後も継続していく。その上で、生徒とのコミュニケーションを深め、問題行動を未然に防止する。</p> <p>②SC・SSWにつなぐ必要のある案件の増加に対応できるよう、全日制との調整を行う。あわせて、外部機関を含め、個々の生徒のニーズに応じた相談に対応できるよう環境整備を行う。</p>

			機能させ、生徒個々の状況に対応したアプローチと支援を行う。	談 Co) ・スクールカウンセラー (SC) ・スクールソーシャルワーカー (SSW) や、外部機関と連携し学校生活を支援する。	ったか。	きた。教員間で生徒情報を共有しながら生徒の困り感を早期に察し、保護者等の協力を得つつ、安心・安全な学校生活を支えた。また、長期休業前には全校集会を活用して、生活規範の意識付けやいのちの大切さについて啓発した。	組む意識・体制を整備する必要がある。今後も、年次団や他グループと連携しながら生徒への支援を継続していく。			
3	進路指導・支援	キャリア教育の一環として、道徳教育との関連性をもって、すべての教育活動において、生徒一人ひとりが社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる。	生徒一人ひとりのキャリア教育の充実を図り、それぞれが希望する進路の実現を支援する。引き続き、進路未決定者(進学・就職準備は除く)の数を減らす。	進学希望者が増加傾向にあることから、進学指導の充実を図っていく。入試方法の多様化から、入試方法について進学希望者一人ひとりにきめ細かな進学指導を行っていく。就職希望者一人ひとりのニーズに応じた就職支援として、ハローワークなどとの連携を図る。	進路ガイダンスや講話等を通して、進学指導の充実を図ることができたか。就職希望者一人ひとりのニーズに応じた就職支援として、ハローワークなどとの連携を図ることができたか。	・生徒一人ひとりが自分の個性や適性を理解できるよう、年2回の進路ガイダンスを行った。また卒業年次生に対して、6月に就職活動直前説明会や進学希望者向けの説明会などを実施し、生徒の進路実現に向けたサポートを行うことができた。 ・進学希望者が徐々に増えてきたことから、進学に関する情報冊子等の充実を図ることができた。	・1年次からのキャリア教育を系統的に行っていない部分がある。引き続き各年次の担任団や「総合的な探究の時間」担当と連携を密にして、系統的にキャリア教育を行なう。 ・進学希望者向けの資料の充実を図るとともに、進学についてのより具体的な説明会等の充実を図る。	○生徒一人ひとりの自己実現のため、主体的に考えさせ、ミスマッチのない進路指導を実現させてほしい。 ○探究的な学習活動は大学入試等でも重視されているので充実を望む。	①生徒一人ひとりの自己実現について、ガイダンス活動の充実により支援ができた。入学年次からの系統立てた進路支援が実践できるよう研究していく。 ②進路に関する情報発信の充実を図ることができた。入試等の情報をより詳細に提供できる環境にする。	①在学期間を通じたキャリア教育を系統的に計画し実践する。 ②進路に関する情報について、書籍の充実や ICT 活用で環境を整える。
4	地域等との協働	周辺自治会および関連行政機関との連携を一層充実させ、教育力を向上させる。	周辺自治会および関連行政機関との連携を強化し、開かれた学校づくりをさらに推進する。	周辺自治会や夜間中学等と連携し、地域貢献できる人材を育成する。また、学校広報活動の推進を図り、学校ホームページ等を充実させる。	周辺自治会や夜間中学との連携を図り、学校行事や地域貢献活動および、その他の活動を実施できたか。また、学校広報活動の推進のためホームページを更新できたか。	・夜間中学との避難訓練はスケジュールが合わず共同実施はできなかったが、地域貢献活動を実施できた。また、学校広報活動のためのホームページを積極的に更新し、説明会参加者の6割以上がHPの閲覧がきっかけであった。	・各行事のスケジュールを早めに検討する必要がある。地域貢献活動等も幅広く検討の余地がある。また、説明会等の情報発信だけでなく、地域に向けての学校情報の発信も本校への理解へつながる。他グループと連携して更なる情報発信したい。	○周辺自治会や夜間中学との連携を引き続き模索してほしい。	・夜間中学との連携活動は、スケジュールの関係で困難であったが、地域貢献活動を共同で実施できた。 ・学校説明会の実施形態の工夫により、参加者が増加した。引き続き、地域活動や教育活動の情報発信に努める。	・夜間中学との連携について、生徒間・教員間の交流の機会を模索する。あわせて、お互いの学校行事の共同実施を検討する。 ・情報発信については、動画発信等ができるよう環境を充実させる。
5	学校管理 学校運営	①学校防災力を向上させ、自らのいのちを守る防災教育を実践する。 ②不祥事防止を徹底し、教職員の不祥事防止に取り組む姿勢を一層向上させる。 ③教員のライフワークバランスを推進するため教員の働き方改革を推進する。	①いのちを守るための学校づくりを推進する。 ②事故・不祥事をゼロとする。 ③会議に係る時間を削減し、教員の働き方改革を推進する。	①いのちを守るために生徒及び地域の実態に合わせた効果的な学校防災を研究する。 ②事故・不祥事防止会議等、あらゆる機会を捉え、教職員間で情報共有し、事故・不祥事ゼロを実現する。 ③会議スケジュールの Slim 化及びペーパーレス化を図り、会議の準備や会議資料の整理等の時間を削減する。	①今後、3年間を見通した計画的な学校防災を研究することができたか。 ②事故・不祥事がゼロであったか。 ③企画会議および職員会議等の各種会議のペーパーレス化の推進ができたか。	①計画的な学校防災を研究したが、計画案には至らなかった。 ②事故・不祥事ゼロを達成した。 ③職員会議のペーパーレス化を実施できた。	①継続的な協議が必要である。 ②事故・不祥事の未然防止については、引き続き、あらゆる機会を捉え、教職員間で情報を共有し、ヒヤリハット事例を含めて、根絶を目指す。 ③企画会議や各種会議まではペーパーレス化できなかった。少数単位での会議活動が多いため、ペーパーレスのメリットが低いととえらる。	○会議資料からも学校運営にあたる先生方の業務の多忙さは容易に想像できる。日々の教育活動、業務遂行に感謝する。 引き続き、確実で的確な業務遂行をお願いする。	①防災訓練は、緊張感を持って実施できた。生徒に校内の防災設備等を確認させ、防災・減災について考えさせることができた。 ②事故・不祥事ゼロを達成した。引き続き全力で取り組む。 ③教員のライフワークバランスについて、情報を共有するとともに、改善意識を醸成できた。職員会議のペーパーレス化を実践した。	①万が一の時に想定外をつくらぬよう、生徒主体の防災教育・減災教育を検討する。 ②全日制で生じた重大なヒヤリハットを教訓にし、事故・不祥事防止のための確実なチェック体制を構築する。事故・不祥事防止会議の充実と全職員の意識向上を図る。 ③教職員の健康は生徒指導・支援の絶対条件であることから、引き続き、衛生委員会等を活用して組織全体で考えていく。